

第8号議案

防災・安全交付金(河川改修)
ぬくいかわ
 一級河川温井川 高崎市・藤岡市

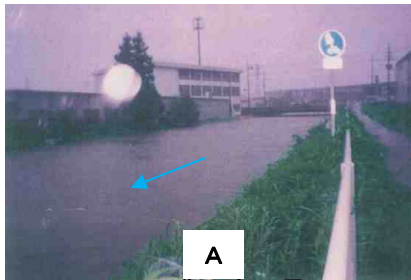
着工年度
 評価理由

平成12年度
 再評価後5年経過

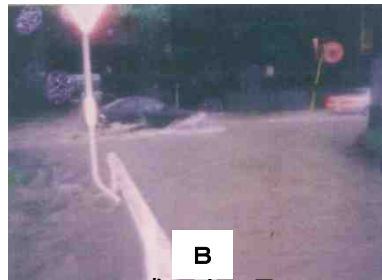
1. 事業の目的

温井川は藤岡市～高崎市新町を流下し、烏川に合流する流路延長約6.2kmの一級河川である。

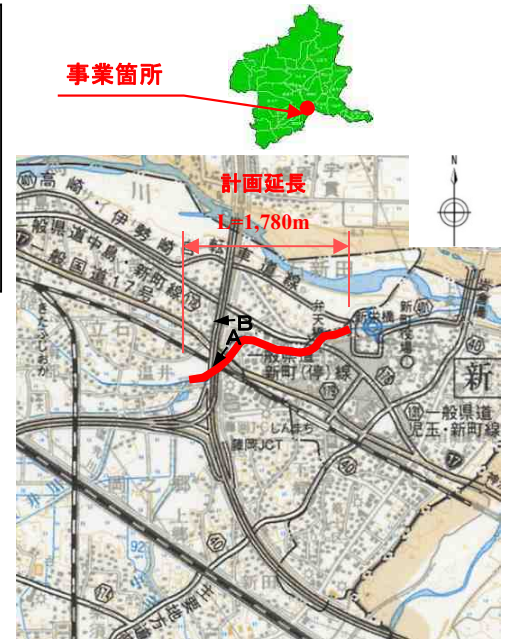
断面狭小による流下能力不足により浸水被害が頻発していたため、過去に河道改修を行ったが、近年、流域内の都市化が急速に進んだことにより、再び事業所や家屋の浸水被害が発生している状況である。このため、河道改修により流下能力を向上させ、流域内における浸水被害の軽減を図るものである。



A
 平成11年8月
 出水状況



B
 平成10年9月
 出水状況



2. 事業概要と進捗状況

事業概要

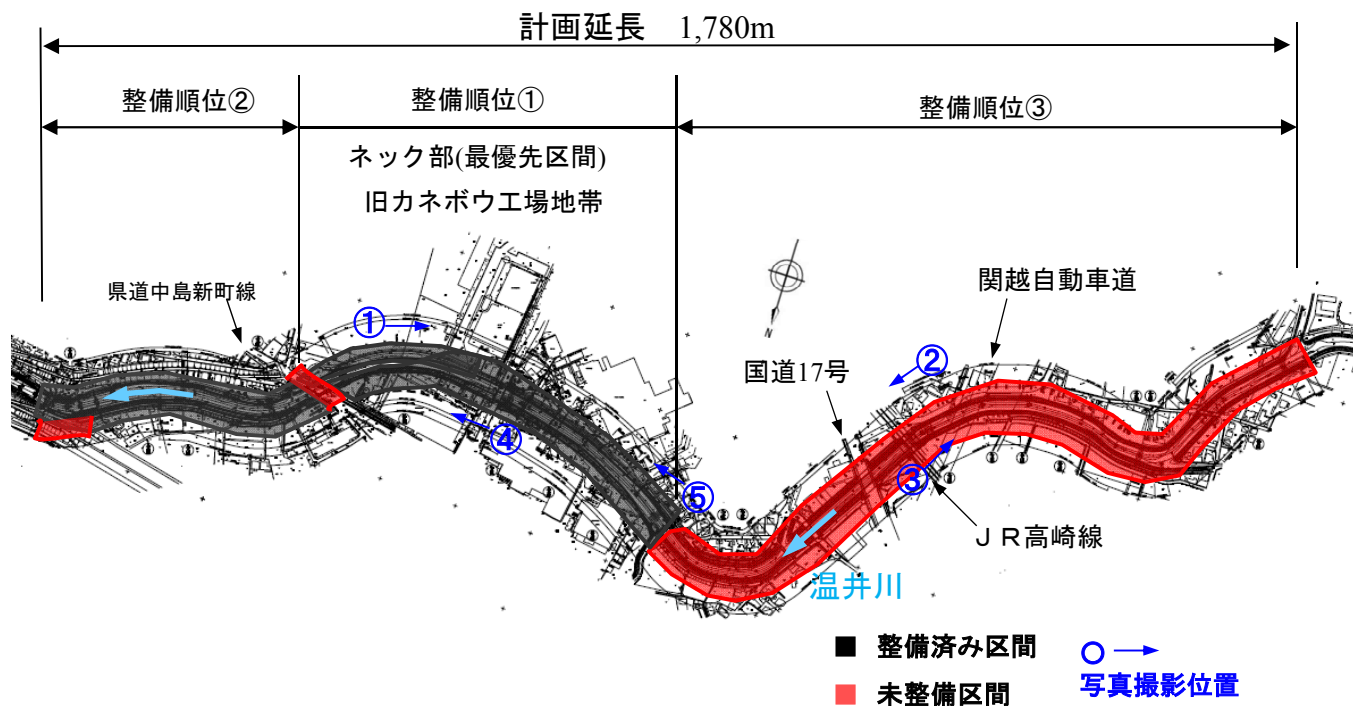
事業場所	たかさきしんまち 高崎市新町 ～ ふじおかしたついで 藤岡市立石	
区分	今回	前回(H22)再評価時
全体事業費	2,410百万円	2,410百万円
事業期間	H12～H31	H12～H27
事業内容	河川延長 1,780m 計画規模 1/30 計画流量 163m ³ /s (現況流下能力約65m ³ /s)	河川延長 1,780m 計画規模 1/30 計画流量 163m ³ /s (現況流下能力約65m ³ /s)

事業経緯

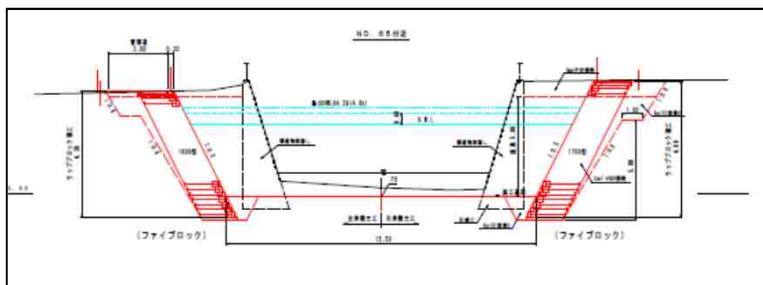
進捗状況

年度	主な経緯	全体計画	現在の進捗状況 (進捗率)	前回再評価時の進捗状況 (進捗率)	
H12	事業着手				
H15	用地買収着手	事業費	2,410百万円	1,713.3百万円 (71.1%)	932.9百万円 (38.7%)
H17	工事着手	用地買収	10,313m ²	10,313m ² (100.0%)	4,290m ² (56.2%)
H24	用地買収完了	計画延長	1,780m	820m (46.0%)	214m (12.0%)
H27	優先整備区間完成予定			延長は左右岸護岸の整備済み平均による	

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)



標準横断面図 (旧カネボウ工場地帯)

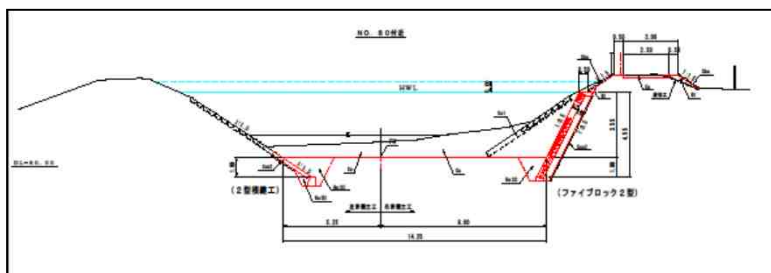


① 旧カネボウ工場地帯付近
河道拡幅完了

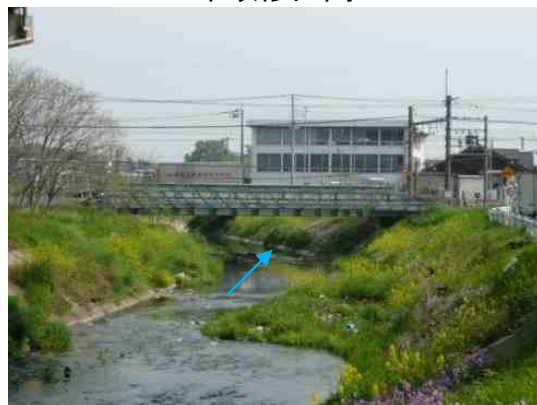


河道拡幅による流下断面の確保

標準横断面図 (上流部)



② J R高崎線上流部
未改修区間



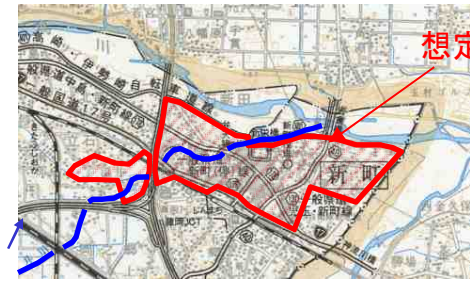
河床掘削による流下断面の確保を予定

3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

本川沿いには住宅や工場が建ち並び都市化が急速に進んでおり、国道17号やJR高崎線などの主要交通も近接していることから、河川が氾濫した場合、住宅への浸水被害だけでなく交通への影響も大きく、河川改修の必要性は非常に高い。



③ 現況河川
未改修区間
狭窄部
(JR高崎線下)



想定氾濫区域

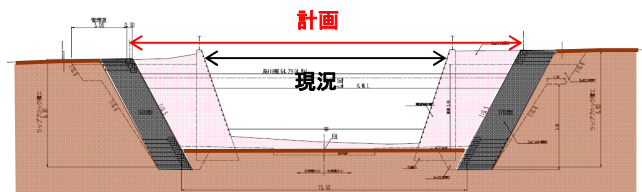
4. 目的を達成するための事業(手段)は適切か？

治水対策として、河道改修、調節池、放水路が考えられるが、本流域の地形や土地利用状況等を考慮すると、工期やコスト面においても河道拡幅と河床掘削による河道改修が妥当である。

最も河道が狭く治水上ネックとなっていた旧カネボウ工場地帯の整備を最優先とするため、下流河川断面の流下能力見合いで河道拡幅を実施し、追って下流の直轄管理区間からの河道拡幅を実施する。



旧カネボウ工場地帯 河道拡幅完成



旧カネボウ工場地帯の河道拡幅

費用便益分析

		前回(H22)再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月		治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月			
基準年		平成21年度		平成26年度			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	2,246,864	91.7%	2,332,175	91.9%		
	維持管理費	204,581	8.3%	205,430	8.1%		
費用合計(C)		2,451,445		2,537,605			
便益 (千円)	一般資産被害軽減便益①	11,045,227	35.7%	12,692,742	35.8%	氾濫面積:211.2ha 床下浸水:1,350戸 床上浸水:2,337戸	
	農作物被害軽減便益②	5,740	0.0%	10,189	0.0%		
	公共土木施設等被害軽減便益③	18,710,615	60.4%	21,502,955	60.7%		
	営業停止被害軽減便益④	555,615	1.8%	512,379	1.4%		
	応急対策費用軽減便益⑤	629,909	2.0%	687,048	1.9%		
	残存価値⑥	32,699	0.1%	27,951	0.1%		
便益合計(B)		30,979,805		35,433,264			
費用対効果分析(B/C)		12.64		13.96			

5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画】

【不測の事態により長期化】

[元々が長期計画]

・河川事業では、河道狭窄部のみを改修すると、その下流に新たな氾濫を起こすおそれが生じるため、下流から事業を進捗させる必要がある。本河川においては1,780mにわたる区間での河道改修が必要であり、長期計画となっている。

[不測の事態により長期化]

・旧カネボウ工場地帯の拡幅区間において、工場所有者との用地交渉が難航したため、3年間の不測の期間を要した。(H24年2月工場移転完了)
・また、旧カネボウ工場地帯は明治10年に国内初の官営屑糸紡績所として開業した「新町紡績所」跡地であり、埋蔵文化財調査の結果、大正年代のレンガ護岸が発掘された。この貴重なレンガ護岸を保存方法に係る協議に、2年間の不測の期間を要した。(H26年9月保存協議完了)
上記に事由により、長期化している。



工場地帯の用地買収



レンガ護岸の保存

6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし

・ 事業計画の変更

・ スケジュールの変更

・最優先整備区間においては、用地買収や関係機関との協議の難航により、約5年間の不測の期間を要したが、現在、工事は完了している。

・残区間には国道17号およびJR高崎線の橋梁があり、既に管理者との協議は整っている。

・また、本河川沿いには住宅や工場が建ち並び都市化が急速に進んでおり、国道17号やJR高崎線などの主要交通も近接していることから、河川が氾濫した場合、住宅への浸水被害だけでなく交通への影響も大きく、依然として河川改修の必要性は非常に高いので、引き続き、事業を推進したい。